

## 平成30年度神奈川県献血推進協議会議事録

開催日時：平成31年2月4日（月）午後1時30分～3時

開催場所：日本赤十字社神奈川県支部会議室

### 事務局

大変長らくお待たせをいたしました。ただいまから神奈川県献血推進協議会を開会させていただきます。本日会長の黒岩知事が所用により欠席でございますので、副会長の市川健康医療局長よりご挨拶をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

### 市川副会長

神奈川県健康医療局長市川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。知事が欠席ですので私の方からご挨拶をさせていただきたいと思っております。

まず、本日皆様大変お忙しい中、神奈川県献血推進協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様方には、献血事業の推進はもとより、県政全般の様々な場面でお力添えいただいておりますこと、まずこの場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

ご承知のように、血液は今の科学技術をもってしても人工的に作ることができないため、医療に必要な血液製剤は、献血によって賄われております。先ほども動画がございましたように、病気の治療のために非常に多くの血液が使われているという状況でございます。

医療技術の進歩等により、血液製剤の需要が今後横ばいから微減傾向になるのではないかと見込まれておりますが、少子高齢化で献血可能な人口が減ってしまうことも見込まれておりますので、やはり献血していただく方の確保が一層必要となっております。

特に今、やはり課題として考えておりますのは、20代30代の若い方、この方々の献血者数が減少傾向にあります。そうしますとやはり将来の安定的な血液の確保という点から非常に重要な課題だと思っております。そこで、本県では赤十字血液センターや市町村と連携し、また、本日お集まりの皆様方のご協力をいただきながら、様々な献血キャンペーン等に、取り組んでいるところでございます。

本日は、今年度の献血事業についてご報告させていただくとともに、来年度平成31年度の献血目標やその目標を達成するための取り組みなどを位置付けました献血推進計画案について、ご協議をしていただくこととしております。ぜひ、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。本当に日頃から皆様方には、この献血事業にご理解そしてご支援を賜っております。今日もこの会議の場で、こういうふうになれば、もっとこう若い方にアピールできるのではないかとか、そういった様々な角度からご提案をいただければ大変ありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 事務局

ありがとうございます。本日の委員の皆様のご紹介でございますが、大変恐縮でございますが、委員の名簿と座席表をお配りさせていただいておりますのでこれを持ちまして省略とさせていただきます。次に資料ですが、事前に委員の皆様には郵送等でお送りしているところではございますが、本日机前にお配りしてありますものをご覧いただきますようお願いいたします。事前にお送りしたのから若干の修正を加えておりますので、机上のものをご覧いただきますようお願いいたします。また次に皆様の前にありますマイクについてご紹介をさせていただきます。ただいま目の前のマイクの赤いランプがついていようかと思います。この赤いランプの状態でする状態、録音されている状態にな

ります。ご発言いただきますときには、お手を触れずにそのまま若干マイクに口を近づけてお話いただくと大変録音の状態が良くなりますのでご協力をよろしくお願いいたします。それでは議事に移らせていただきます。議長につきましては、要綱に基づきまして市川副会長にお願いいたします。

#### 市川副会長

それでは、私の方から議事を進めさせていただきます。どうぞ皆様方ご協力よろしくお願いいたします。まず初めに本協議会につきましては原則公開とさせていただきます。本日は神奈川県情報公開条例第5条において、非公開にあたる案件は予定してございませんので、すべての協議事項について、公開とさせていただきます。公開に当たりましては会議の冒頭での写真撮影の許可も含まれておりますことをご承知お願います。本日傍聴希望の方はいられますか。

#### 事務局

おりません。

#### 市川副会長

それでは、現時点で傍聴人はいられないということですが、もし会議中に傍聴希望の方がいらっしゃる場合は、入室することがございますのであらかじめご了承願いたいと存じます。それから、委員の皆様にご相談させていただきます。本日の協議会の記録を作成いたしますが、議事録の形式は発言内容の要約を議事録とさせていただきますがよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは議事に入らせていただきます。まず（1）報告事項でございます。ア、イと2件ございますが、説明を一括させていただきます。質疑は一括の説明の後に行いたいと思いますので、よろしくお願い致します。では、事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

ア 献血状況につきまして、資料1に基づき、平成30年度の献血の状況についてご報告いたします。

資料1の表1の年度別種別献血状況ですが、献血者数と献血量を平成28年度からお示ししております。なお、資料1に記載しております、平成30年度数値は平成30年12月末現在のものがございます。献血者数と献血量ともに平成28年度から概ね前年比を維持しております。県赤十字血液センターでは、血液が不足しそうな時には、移動採血車の増発等の血液の安定的確保や、血液センターのブロック化によるブロック内での血液の有効活動を行うため、調整を行っておりますので、病院等の需要に応じた血液供給については、不都合はないとのこととあります。

続きまして、表2になります。年度別の献血目標及び実績を献血者数と献血量別にお示したものでございます。平成28年度以降目標をやや下回る状況が続いておりますが、概ね同水準を維持しております。今年度は第3四半期が経過し12月末現時点で目標達成率が献血者数と献血量とも70%を超えておりまして前年同期とほぼ同様な数値となっております。

続きまして表3、年度別年齢別献血状況です。献血者の年代を10歳ごとに区分しまして、献血者数とその構成比を平成28年度から示しております。28年度から30年度、それぞれの年度の構成比をご覧くださいと、40代50代の方、合計すると、すべて50%を超えております。主な献血者となっていることがわかりいただけると思います。その中でも

若干ですが、40代が減少し、50代が増えております。献血者の高齢化が少しずつ数値で出始めているのではないかと考えられます。また20代30代以下の若年層の減少傾向も依然として続いている状況であります。10代につきましては、平成28年度は、4.9%、平成29年度は5.0%、30年度5.2%と若干増加しております。これはひとえに普及啓発の効果であり、これを1回の献血に終わらせない努力が必要と認識しております。また、裏面には参考に、平成30年度12月末現在市町村別の目標と実績を掲載させていただいております。これは市町村ごとの人口や過去の献血実績から、目標設定させていただいております。市町村ごとに達成状況に差がございますが、1月から3月にかけて献血車の稼働によりまして、概ね目標を達成できる状況でございます。今後とも一層の啓発を行い、目標達成に努めて参りたいと考えております。献血状況につきましては以上でございます。

続きまして、イの平成30年度献血推進計画における県及び血液センターの取組状況につきまして説明させていただきます。資料2をご覧ください。こちらの資料につきましては、本年度の献血推進計画とそれに対する県と神奈川県赤十字血液センターの取り組み状況がわかるように対比して作成しております。左右を見比べながらご覧いただければと思います。1献血目標ですが、右側の献血状況は、平成30年12月末現在の通り、全血献血61,178L、達成率72.2%。血小板成分献血10,343L、達成率67.2%。血漿成分献血20,900L、達成率72.9%となっております。次の2ページをご覧ください。右上の神奈川県献血推進計画に基づく各市町村の目標設定でございます。こちら先ほど資料1で説明させていただいた通りでございます。左側に前項の目標を達成するために必要な措置がございます。(1)献血に関する普及啓発活動の実施としまして、ア若年層に対する普及啓発活動の実施では、右側の神奈川県学生献血推進連盟による献血推進活動で記載の通りの活動を実施いたしました。キッズ献血の運営や各種イベントの呼びかけを実施してございまして、延べ188人の学生が参加いたしました。次に3ページに移りまして右側、動画による広報です。会議開始前にご覧いただけたかと思いますが、県の動画サイトかなチャンネルでなかなかぞくによる献血啓発動画の放映をいたしております。また新たに実際の輸血経験のある方に協力いただきました「あなたの献血で誰かの命を救います」を作成いたしました。4ページをお願いいたします。こちらの「あなたの献血で誰かの命を救います」ですが、現在記載の通り、かなチャンネルや、県や市のデジタルサイネージ、相鉄線の車内で公開しております。その下キッズ献血の開催でございます。今回で4年目となります。昨年8月4日から5日に大型ショッピングセンタートレッサ横浜で開催いたしまして2,283人の方々に参加していただきました。次の5ページをご覧ください。このキッズ献血の広報のため、横浜市教育委員会の協力を得て、会場近郊の港北区、鶴見区の小学校47校全児童に資料記載の広報のチラシを配布いたしました。その他資料に記載の通りの広報をいたしております。次に6ページをお願いいたします。高校生の啓発でございます。県立高等学校長会並びに神奈川県私立中学高等学校協会の協力をいただきまして、県立、市立、私立の高校約300校、約71,000人の生徒に資料掲載の啓発用チラシを配布いたしました。今、皆様のお手元にお配りしておりますチラシがそちらのものでございます。高校生の献血は、将来にわたりまして献血に協力いただくための献血者数の増加に加えまして、人を思いやり、助け合うという心をもつことの醸成という役割もあり、献血層の普及啓発で非常に大きな意味を持つものと考えております。次に7ページでございます。6ページと同様に献血セミナーの開催案内を高校に配布いたしております。本年度中だけでなく、次年度のカリキュラム編成に組み込みまして、この献血セミナーを実施していただけるようお願いしているものでございます。実施状況は資料記載の通りでございます。その下川崎市、神奈川県赤十字血液センター及び川崎フロンターレの三者主催イベントの開催でございます。市町村とスポーツクラブとのコラボレーションを行いまして、ターゲットを絞

り込んだ献血活動を実施しております。8ページをお願いいたします。左側（イ）企業等における献血の推進でございます。その取り組みとしまして右側神奈川県医師会や神奈川県指定自動車教習所協会、生命保険協会神奈川県協会に働きかけております。それぞれの母体での協力をいただきまして、資料記載の通り実績を上げております。

次に、献血協力企業団体の開拓でございます。安定的な献血者確保が見込まれる献血協力企業団体を増加させるため取り組んでおりまして、新規開拓数は56社であり、今後8社を予定しております。参考に平成29年度末での数値となりますが、献血協力団体数は1,124社となっております。その下の県職員献血の実施でございます。県庁の職員を対象といたしましたもので、昨年度の年間2回から今年度年間3回の実施に拡大いたしております。9ページに移りまして、複数回献血ラブラッドでございます。平成30年10月から愛称をラブラッドに全国統一しWeb会員サービスを開催いたしました。左側のイ献血推進キャンペーン等の実施でございます。右側に記載の通り、年間4回キャンペーンを実施しており、春と秋は県単独でのキャンペーンとして実施しております。このキャンペーンにおきまして、資料記載の通り様々な広報を行いまして、普及啓発しております。次に10ページをお願いいたします。右側は資料記載の写真は、FMヨコハマに学生ボランティアが出席した時のものでございます。その下左側、ウ献血功労者表彰でございます。右側厚生労働大臣表彰状、感謝状知事表彰、保健福祉事務所長表彰など記載の通り表彰を行いました。11ページのエ、オ、アは資料記載の通りでございます。右側に本日の献血推進協議会の開催を記載しております。その下（2）献血の推進に際し考慮すべき事項でございます。右側公共施設を献血会場に提供し、その実施日場所など、ホームページ等で事前に住民に周知いたしました。次に12ページをお願いいたします。イからアにつきましては、資料記載の通りでございます。エにつきましては、各献血についてツイッター、ホームページ、リーフレットの配布等によりまして、積極的にPRを行っております。参考に、本日お配りしました、先ほどのリーフレットの裏面に横浜リーフ献血ルームの様子を掲載しております。こちらはおしゃれなブックカフェをコンセプトにリラックスしながら、献血できる施設でありまして、若者が入りやすい環境を整えている施設でございます。最後になりますが、左下3、災害時における血液確保等についてでございますが、平成30年8月26日に9都県市合同防災訓練に参加し、血液製剤搬送訓練を実施しております。事務局からは以上でございます。

市川副会長

ただいま事務局から献血の状況についてということとそれから30年度の取り組み状況について報告がございましたけれども、この2点につきまして、まず、ご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

藤澤委員

それでは1点、確認ですが、献血セミナーというものを毎年実施されているとは思いますが、普及啓発の意味合いがあるのかなとも思われるのですが、ちょっと簡単に内容をご紹介いただけましたらと思います。

市川副会長

それでは事務局から献血セミナーの概要を説明していただけますか。

血液センター

献血セミナーですが、主に高校生、或いは場合によっては赤十字の加盟校等にお邪魔し

まして、献血の説明をしております。説明の仕方はビデオを使ったり、或いはパワーポイントを使ったりですね、受講する方が飽きのこないように、献血の必要性から、命の大切さ、こういったところをお勉強していただいております。少しずつ増えています。今年も、すでに行っておりますが、向上高校等の高校にお邪魔をしてセミナーを複数回行ってるところでございます。以上です。

市川副会長

はい、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

藤澤委員

もう一点突っ込んだ質問で恐縮ですが、ビデオというのは、一般に公開されているものではなくて、セミナーの時に、行かれる方のみがご使用されるものでしょうか。例えば一般普及啓発用にDVDがあるとかなですね、そういったことはなくて、その時に使用のものでしょうか。

血液センター

一般の方が見るにはYouTube等で見ることができます。ただやっぱり私たちもまだまだPR不足ですね、その見方がわからない方がいらっしゃるかと思いますが、一応一般的に見られることになっております。それをセミナーで、流すということです。

藤澤委員

それは日赤さんのホームページに掲載されているのですか。

血液センター

さようでございます。

藤澤委員

わたくしは仕事でボランティア論の講義を大学で行っておりまして、献血の活動というものも自発的に行う、ボランティア活動に含まれるというような話をいたしました。ただ献血に関しての基本的なことが、少し一般的なボランティア活動とまた違う点、なぜ必要かという点などが、パッケージになって、見せられるようなもの、DVD等があると用いることができます。インターネットですと繋いでというようなワテンポ加わってしまいますので、もし、そのようなDVDを作られて、配布等したり、或いは図書館に置いたりとかされるのも一案ではないかなと感じました。もしございましたら私も活用させていただきたいなと思います。

市川副会長

ありがとうございます。そうですね、確かに今みんなインターネットの動画をやっているのですが、そういう環境がないと、それが見れなかったりします。話よりも、一度見ていただいた上で、お話したほうがより理解も進みますね。

藤澤委員

さようでございます。やはり教材として用いる場合に、インターネットに繋がらないと利用できないというものと制約条件がかかってしまいますので、より広く広める手段として、そういったものも、準備されるとよろしいかなと感じます。

市川副会長

よろしいですか。はい。

藤崎委員

大変重要なお指摘だと思います。今までも幾つもの動画は本社の方も、我々の方も作っておりまして、いろんなものがあるのですけれども、おっしゃられたように、DVDとかね、ああいうものに対して協力いただける方々にお届けして、それを活用していただくということですね。今、そういったものがどのくらいあるのかちょっとご説明いただけますかね。

血液センター

DVDでございますが、新しいものでは3種類くらいです。

藤崎委員

これを状況に合わせて使っていただいている。そうすると、いろいろな団体や個人の方に協力いただいているわけですが、そういうものをお使いいただけますよっていうPRをもっとして、どうぞご活用くださいというようなアプローチをもう少ししていただくのも、有力かもしれませんね。

血液センター

承知しました。

市川副会長

そうですね。本当にせっかくそういう機会に普及啓発の活動をしていただければ、より効果的に活用するほうがいいと思います。ぜひ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

他にございますでしょうか。はい。では中嶋委員どうぞ。

中嶋委員

8 ページ目の献血協力企業団体の開拓で記載されているのですが、基本的にこの29年度は協力企業団体数が1,124、新規が73 っていうことなんですが、30年度の数値は大体どんな感じなんですか。

市川副会長

事務局の方いかがでしょうか。

血液センター

今現在、でございますか。

中嶋委員

30年12月現在、それで30年度、56社っていう数字が出ているのですが。随分乖離されているような感じがしないこともないのですが、どのようにとらえたらいいのでしょうか。

血液センター

現在、12月現在でございますので、予定で8社って入っていますが、もう少しスタッフに声掛けをして増やすように指示をしているところでございます。

市川副会長

この参考の29年度の1,124社というのは、累計ということよろしいのでしょうか。

血液センター

さようでございます。

市川副会長

29年度の新規開拓数は73社ということで、30年度は56社で、予定が8社ですから両方で64社となり、もうちょっと頑張ってくださいと昨年並みという、そういうふうな理解でよろしいのでしょうか。

中嶋委員

5年間ぐらいの間で、大体数値的にはこのぐらいの数字になっちゃうんでしょうかね。それともだんだん少なくなっているのか、ちょっとその辺のところを教えていただければと思います。そうすると我々も頑張らなきゃいけないかと思います。

血液センター

協力団体数については、大体横ばいでございますが、新規はちょっと減ってるかなという感じです。

市川副会長

よろしいでしょうか。はい。

大山委員

私もその企業の協力ということについてちょっとお伺いしたいのですけれども、これはその企業さんが、社員が、献血に協力するという意味なののでしょうか。

血液センター

主には会社さん企業さんにお邪魔をしましてその社員さんなり、或いは関連している方達にご協力いただきますが、ただ場合によっては、ビル自体で献血するのがありますが、そういう場合ですと、複数の会社にお問い合わせをして、そこから来ていただいているというケースもございます。

大山委員

協力していただいている企業を表彰というかそういったことも行われていますか。

血液センター

はい。

大山委員

私もこの委員2年目になりますので、前回以来、身近な10代20代の子たちにアンケートを取ってきましたが、今の若者は、私たちの時代よりせちがらいと申しましょうか。例えばですね、出産のお祝いに何がいかっていうと、紙おむつと言ってるんですよ。そういう状況になっている中で、献血も何かものももらえるといいみたいなことを聞きます。例えば企業の協力を得られるのであれば、ファストフード店のドリンクとか、トッピング無料クーポンとかコンビニのクーポンとか映画の割引とか、そういったタイアップをしていただくような形の協力ということも、検討していただければ、いかがでしょうか。これは、20代の男性たちから聞いているのですが、ご検討いただけたらどうかなと思うのですが。

市川副会長

はい、ではいかがでしょうか。

血液センター

おっしゃる通りです。いろいろ私たちもいろんな献血記念品についてはアンケートを行ったりどんなものがあるかということで、調査したりします。もちろん今おっしゃっていた、そういう実用的なもの或いは結構食べるものがあるという意見が多いところですが、しかし、基本的には献血でございますので、本来のところと外れてしまう記念品はちょっと難しいというところですが。

市川副会長

難しいところだと思います。そういう本当に若い方のお気持ちもあるんですが、やはり献血というのは、お金で買えないようなお気持ちでつというのがある。なので、血液センターでは、コーヒーは無料で飲めるとか本が読めるとか漫画が読めるとかいろいろ工夫はされてるんですけども、その辺が非常に難しいところだと思うんですね。ただ若い方の意見も踏まえながら、今後も考えなければいけない視点で多分皆さん頭を悩ませているところではないかと思えますね。

血液センター

はい。本当におっしゃる通り、やはり善意の献血っていうことはもちろん基本です。若い方たちも例えばカップラーメンで嬉しいとか、いろんなことがあってそれが華美にならない程度の範囲内で報いるというんですが、全員にそんな形のことはやはり大事だろうと思います。私どもが赤十字として事業の中で、そういう記念品みたいな形で提供する予算があって買っているものもあるんです。今、石澤氏（石原委員代理）もおられますけれど、ライオンズクラブさんですとかいろいろな協力をさせていただける。団体の皆様方からまたそれに加えてですね。いろんなものをご提供いただいています。大変にそれは喜ばれると、いうようなこともあってですね。そういうこともご協力を得ながら、何とか努力行為に報いるような形で、現実に取り組みまれています。改めて工夫していかなくちゃいけない。

大山委員

すみません続けて申し訳ないですけども、善意をまっすぐに受けとめるための提案をさせていただきたいと思えます。まず動画の活用ですが、私もこのタイトル見て、インターネットで「かなかなかぞく」「献血」と検索すれば見られる、それは積極的に見てくれる人はいいのですけれども、小学生がなりたいた職業ナンバーワンのユーチューバーの人に献血を体験してもらおうというのはどうでしょう。先ほど献血ルームでコーヒーを飲むと

ころがあるとのことでしたけれども、女の子たちは献血が怖いというようなイメージがあるそうです。

この資料の中に17歳から成分献血で男性が対象なんていう年齢のことが出ています。一方で、はたちの献血という言葉が大変普及しておりまして、献血の開始年齢に対しての共通認識ができていないのではないかと思います。何歳から何歳まで献血できますよという情報ですとか、1回の所要時間が何分なのかなど、所要時間とか恐怖心を取り除くような動画を例えばユーチューバーの人に語ってもらうような、そういった発信ができればと思います。

そして協賛企業ですけれども、ものをもらうという形ではなく、例えばゲームのアクションゲームのライフポイントが増加するコードを献血の時にもらって、そのコードを入力すればライフポイントが上がるという取り組みをやっている海外の例もあるそうです。これだったらお金ではなく、若者にゲームしながら、献血もしてもらえます。

最後に、とてもいいサイトがあったのでご紹介します。献血を呼びかける「世界のささる広告」というのがありまして、広告とか、企業とのタイアップですとか動画とか8種類あったのですが、大変参考になりました。もうすでに把握されているかもしれませんが、献血を呼びかける「世界のささる広告」というのが、本当に私の胸にささりましたので、神奈川県においてもご活用できればと思います。

市川副会長

参考にですね、事務局の方よろしいでしょうか。

事務局

はい。委員の胸にささったという広告というのは、私は見たことがないので、見たいと思います。

市川副会長

ありがとうございます。

藤澤委員

実は発言の機会が今でふさわしいかちょっとわからないんですけども、若者の声ということで大分ご議論が進んでいたところですので、付け加えさせていただきたいかなと思って、発言いたします。

今年度といいますか昨年になりますけれども、大学生向けにボランティア論というものを初めて講義させていただきまして、その中で献血に関してもご紹介をさせていただきました。関心を示す学生もわりにおりましたけれども、実際に献血まで至った学生はありませんでした。そしてリアクションペーパーを毎回とっておりまして、学生の声を幾つか聞くことができましたのでご紹介したいと思います。まず、見返りを求める学生というのはボランティア論を受講する学生にはあまりないのかなと思うのですが、一方で懸念がいくつか掲げられておりました。

一つは、事業所等での献血について紹介したのですが、その時に自分の会社で献血に協力をすると、そして表彰なども、あるということで断りにくいような環境になったら少し嫌であるとのことでした。やはりボランティア活動等をうたう場合には、自発性主体性というものが重要でありますので、そこにおいて、何となく強制的な空気というものを感じてやらさせられるのはいかがなものだろうかという意見がありました。その点は十分熟考いただければなというふうに考えております。

そしてもう1点なのですけれども、やはり危険性ですね、やはり体に針を刺すということでの危険性がないのだろうか。正直言ってゼロではないであろうと。そうしたときどうなるのだろうかという、それに関して私もすぐに答えることができませんでした。やはりボランティア活動の場合はボランティア保険というものが準備されております。しかしながら一般的には社会福祉協議会を通じて申し込む保険が中心でありまして、社会福祉分野以外の活動に関して、例えば町内会、自治会等の活動に関してカバーされていないのが現状でございますし、献血の場合はどうなのか、献血事業の中で何かしらご配慮がされているのかお尋ねしたいなと思っておりました点でございます。こういったことをやはり、実際に献血される方に告知されることも必要でしょうし、また、もし可能であれば、献血の様々な手段を使つての普及啓発募集の時点で、ある程度明らかにされるようになるとうろしいかなというふうに感じております。

市川副会長

今の藤澤委員のご質問で、ボランティア保険のようなものといひましようか、献血で何かあった場合の補償的なものがあるかとのことですが、どうでしょうか。

血液センター

はじめのほうの質問から回答します。断りにくい環境にしてはいけない。もちろんおっしゃる通りでございます。気をつけております。それから、危険っていう話がありましたけれども、献血する前にももちろん、特に初めての人にはインフォームドコンセントを行いまして細かく説明をしております。それから針を刺しますが事故がある場合もあります。ちょっと刺したら青くなっちゃったとかですね。或いは、ちょっと神経に触れたとか、ございます。もちろん、それも献血する前には説明をしまして、ご納得いただいた上で、献血しております。それから、あとは健康被害等もやっぱりありますのでこれについてはもちろん保険に入ってます。費用等は、そちらの方から出るようになってございます。要は安全っていうことをキーワードに私たち仕事してございまして、献血する方の安全それから輸血を受けるもちろん患者さんの安全から、私たちの職員の安全というキーワード、安全ということでやっておりますので、ご安心していただいて、献血にご協力いただいております。

市川副会長

安全性に配慮して、献血を推進しているということを、いろいろな普及啓発するときに、併せてPRしていくことが重要だと思います。

藤澤委員

はい。ありがとうございます。先ほどのユーチューバーですとか、なかなかぞくとかで、わっと訴えかけるものも必要かなとは思いますが、やはりそのような安全性への配慮ということも、今おっしゃられたようなことを挙げてアピールされるのも非常に有効かなというふうに思います。

市川副会長

他にもご質問あるかもしれませんが、最後にまとめて、今回の報告事項も併せてご質問ご意見をちょうだいしたいと思います。

次に(2)の協議事項の方に移らせていただければと思います。それでは(2)の協議

事項「平成 31 年度神奈川県献血推進計画案」について、事務局から説明をお願いします。

## 事務局

はい。平成 31 年度の神奈川県献血推進計画案でございます。資料 3-1 をお願いいたします。次ページ以降に記載されておりますように、こちらの 2 ページ目以降が厚生労働省が定める平成 31 年度の献血の推進に関する計画案をつけておりますが、そちらをもとに、今回ですね、この項目が整理されたことを踏まえまして、本県の献血推進計画案も同様に変更いたしております。変更の内容につきましては、資料 3-1 に対比表に記載してございます。左側に神奈川県の平成 31 年度計画、右側に平成 30 年度の計画の項目を抜粋し記載しております。主な変更点は全体を通じて項目及び重複記載等の整理、取組内容の例示でございます。取り組むべきことを明確にしまして、具体的な内容を明示したものでございます。また右側の平成 30 年度の項目で下線が引いてある項目につきましては、平成 31 年度削除させていただいたものです。上から下線が引いているところの④と書いたところです。男性の 400ml 全血献血が 17 歳から可能であることの周知でしたが、平成 31 年度の国の計画案としまして、200ml 或いは 400ml の採血を決定する際におきまして献血者の意思を尊重して採血を実施することとされております。その内容を反映し、削除するものでございます。参考として下線部分につきましては他の項目内容と重複するものになっているため削除するものでございます。次に資料 3-2 をご覧ください。こちらの案は国が 5 年ごとに策定いたします血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針と国が毎年度策定いたします献血の推進に関する計画、これを基に各都道府県が推進計画を立てていくものです。お手元に配布いたしました参考資料 1 血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針は、5 年毎の見直しがされ、平成 30 年度末に改定するものでございますので、案を配付させていただいております。またお手元に配布しております参考資料 2 には、先ほど項目の削除の説明の際に利用させていただきましたが、平成 30 年度の献血の推進に関する計画案であり、こちらも 3 月下旬に告示が予定されております。そのため資料 3-2 の上の方に、何年度何号というところを、空欄にして記載しておりますが、3 月末、3 月下旬にその日程等が決まりましたらそちらに記載したいと思っております。それでは平成 30 年度神奈川県献血推進計画案につきましてご説明したいと思います。資料の 3-2 をご説明いたします。計画の構成は大きく 1 の献血目標 2 前項の目標を確保するために必要な措置 3 災害における献血確保等についてとなっております。1 ページ、1 の献血目標でございます。平成 31 年度の神奈川県の確保目標量は総数 136,795 L と定めております。なお内訳は、全血献血 84,321 L このうち 200ml 献血が 1,305 L、400ml 献血が 83,016 L、成分献血は 52,474 L、そのうち血小板が 19,803 L、血漿が 32,671 L です。右の欄の献血者数はそれぞれの目標量に対する目標となる献血者の人数になります。昨年度計画に比較いたしますと、総数で 8,060 L の増。内訳は全血献血で 361 L の減、成分献血で 8,421 L でございます。理由といたしましては関東甲信越ブロック血液センターでそれぞれの都県での役割や特徴を考慮して受け入れ計画に反映したものでございます。次に 2 の前項の目標を確保するために必要な措置になります。まず (1) の献血に関する普及啓発活動の実施ですが、若年層に対する普及啓発活動の実施でございます。(ア) 動画、SNS 等を活用した広報ですが、献血は命を救うというメッセージを若年層が親しみやすい動画やツイッター等効果的に活用していきたいと考えております。取組み内容は 2 ページに記載の通りでございます。(イ) 生徒学生に対する普及啓発でございます。今年度新規に実施させていただきました高校生のチラシ配布や近畿セミナーの実施案内を継続して行うとともに、いのちの大切さを将来に向けて考えていただくことが献血の行動に繋がるようにするため、献血可能年齢になりました生徒学生に対する取組を、

資料記載の通り推進させて参ります。幼少期の子供とその保護者を対象とした普及啓発活動の実施ですが、献血の大切さを子供の頃から知っていただくことをコンセプトに実施したキッズ献血を実施し、献血が生活の中に浸透できるよう、啓発していきたいと考えております。神奈川県学生献血推進連盟との協力活動ですが、若年層に対する普及啓発を行う際同世代のボランティアの活動はより身近なメッセージとして考えられるのではないかとその育成や組織の継続を行いつつ、取組内容記載の通りキッズ献血の運営や若年層向けのイベントなど様々な機会での啓発稼働活動を図っていききたいと考えております。

続きまして、企業等における献血の推進でございます。(ア)から(ウ)に記載されております通り安定的な集団献血の確保に向けて、今後とも一層、積極的に血液センター、県、市町村が連携をとり、献血の推進に協力する企業団体に働きかけ社会貢献活動としての献血の推進について啓発を図っていききたいと考えて、(オ)の複数回献血推進です。愛称を「ラブラッド」としたWebサービスですが、日頃から継続的に献血していただいている方々に対し、的確な情報提供を行うとともに、安定的な血液提供者の確保対策を図るための大切なツールであると考えております。今後とも積極的にWeb会員の増員を進め、サービスの効果的な推進を図って参りたいと思っております。次に力の献血推進キャンペーン等の実施です。(ア)、(イ)に記載の通り、関係機関と連携を図り各種団体や企業の皆様にご協力をお願いするとともに、放送媒体、ツイッターやホームページ等の様々な広報媒体の活用や、各種イベント等につきまして積極的に実施して参りたいと考えております。(ウ)の献血功労者の表彰及び4ページ(2)の献血推進協議会の開催は、本日の協議会についてですが、これまでと同様、平成31年度も引き続き実施する予定でございます。(3)の献血推進に際し考慮すべき事項です。アからオに記載の通り、県、市町村、血液センターがそれぞれ連携し、常に円滑な血液の提供ができるように体制を整備していきます。最後の3の災害時における血液確保等についてです。県と日赤支部の間で締結いたしました災害用血液製剤の確保に関する協定書に基づきまして、災害時には必要な対応を実施して参りたいと考えていて、以上が平成31年度の神奈川県献血推進計画案です。なお、国の平成31年度の献血推進に関する計画は、先ほども述べました通り、3月下旬に告示される予定です。正式に告示された段階で本県におきます平成31年度の献血推進計画としてご通知を差し上げたいと考えております。以上です。

市川副会長

ただいまの平成31年度神奈川県献血推進計画(案)につきましてご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

河本委員

計画の全体を通してということでお伺いします。災害時における血液の確保ですが、例えば、地域防災計画で、被害状況にいくつかの例があって、例えば東日本大震災のクラスとか阪神淡路大震災もありますが、そういった時に、どのくらい血液量、人数などは具体的に目標として定めてありますか。

市川副会長

事務局いかがですか。

血液センター

すみません。どのくらいっていうのは災害の規模でよいでしょうか。

河本委員

今までの例を参考にして、例えば関東で大規模災害が起きた場合の目標です。

血液センター

わかりました。血液センターは全国、各都道府県に一つございまして、それからそれをまとめているブロックセンターというのがあるのですが、そこで例えば、熊本地震の時、或いはもっと先の阪神淡路大震災の時とか、いろいろ規模がありますが、その被災したところが機能しなくなった場合には、近隣の稼動してる血液センターから応援が生まれて、血液をお届けしたり、場合によっては直接お届けしたりして、近隣のところが支援をします。近隣のところが駄目であれば、もうちょっと離れたところという形でいうとか、一つの単独のところではやるのではなくて、全国規模で助け合って需給調整っていってますけれども、そういうところで助け合ってやるところでございます。

河本委員

この若年層向けのパンフレットや、チラシがあって、献血が、何で必要かということをもっとわかりやすく伝えて欲しいと思います。裏面には何人必要ですと書いてありますが、もっと具体的に例えば、東日本大震災の時はこのくらいが必要でしたとか、通常で900人って書いてあるのですが、どういった方が必要とされているかっていうことも具体的に書いていただいた方がわかりやすいと思います。それと、目標の設定の仕方で、ここでは900人の献血が必要と書いてあって、先ほど今年度の目標で31年度の計画案がありまして、資料3-2ですが、ここで、献血者数313,672人って書いてある。単純に割ると859人です。ですから、このチラシと整合性がない。900人必要ということであれば、328,500人です。目標数はこのチラシと整合性がないとおかしいと思います。

血液センター

初めの方の質問ですが、実は災害も、いろんな災害がございまして、具体的に申し上げますと、東日本大震災の時には津波が来て、実はそんなに血液が使われてなかったということ。それから、熊本地震の時には、重症の患者さん、輸血をする患者さんは、例えば福岡の方に転院をさせたりして、実際、熊本で使うっていうのはそんなになかったと聞いてます。要は外科的なこととか内科的には確か今申し上げたように、福岡の方とか違う病院に転院させて、そちらの方で輸血等々したっていうふう聞いてございます。ですので、その災害によって、血液もその状態によって使う種類が違うものですね。内科系のがん患者があれば血小板を使ったり、外科的であれば、赤血球系を使う等ですね、なかなか説明が難しいんですけども、そんなことがございまして、詳しくは説明されてないのかなと思います。

河本委員

災害時の時もそうですが、毎日900人という数字があるのであれば、どういった方が必要なかということも、もっと具体的に書いていただいた方がわかると思います。

血液センター

わかりました。

河本委員

一つ提案ですが、今まで若者向けという話がありました。できればということなんですが、働いてる方は時間がないとか、チャンスがないとか、やりたいんだけどって人も当然います。これができればすごくいいなと思うのは、大体30歳をすぎると企業によっては人間ドックが、定期健診が義務づけられていますよね。その時必ず採血はやります。その中のメニューに献血っていうのも入れていただいて、同意が得られたらやるのはいかがでしょうか。というのは、半日とか1日長い時間やりますから、休憩期間もありますから、メニューにあれば、私はもっと増えるんじゃないかと思います。そういったチャンスは非常に有効だと思いますから、考えていただきたいと思います。

#### 血液センター

実は、企業では健康診断がございまして、その時に合わせて、献血をやっているところがございます。数はそんなにはありません。ですが、今おっしゃったようにどうせ針刺すのであれば、健康診断と兼ねてですね、献血のデータも出ますので、それと併せてやるところはあります。ただ献血は時間かかりますので、すぐ、わかりましたってわけじゃないのが実情です。

#### 河本委員

時間がかかるということもあるし、半日も一日も休める時間があるのですよね。採血車が来てもどうしても時間がないとか、時間が30分1時間待てないっていう方も当然いるので、そういったチャンスに使っていただきたいし、病院によって資料が送られてきますよね、その中に例えばこういったチラシを入れるとかですね。献血は特に若い人は痛いからいやですとか、そういうイメージがありますから、多分それ大人になっても変わらないと思います。ですからそういったときに、採血の途中ってわけじゃないですが、どっちみち注射するのだからという意識の中で、やっていただければ、それはチャンスかなって思います。

#### 市川副会長

企業のご協力ですとか、検診機関で献血が可能とかいろいろ課題はあるかと思いますが、実際にそういったメニューを取り入れている企業もあるということであれば、そういったところが広がるのであれば、ご検討いただければと思います。

それと河本委員からの900人と目標の数値が違うという話が出たのですが、この目標数値はこの協議の中で、皆さんにご承認いただく事項です。話を整理させていただくと、約900人ということで、本当は800何十何人だけど、それをPRするためにまとめたという理解でよろしいでしょうか。

#### 血液センター

実はですね、850人で、こちらに書いてあるのが900人ということですが、献血に来られた方全員が献血できるわけではない。問診等で献血できない場合もありますので、ちょっと膨らませてご協力いただいているというふうなことでご理解いただければと思います。

#### 河本委員

聞けばわかりますが、疑問に思う人がいると思いますから、そういうふうにご説明いただければと思います。

市川副会長

必要な血液の量と、それを確保するための人数はもっとプラスにして、900人が一般の方にわかるような工夫が必要ということだと思います。目標数字が低いのではないのかと言われるようなことがないよというご意見だと思います。工夫をご検討いただければと思います。

血液センター

わかりました。

市川副会長

他にご意見は、ございますでしょうか。

中嶋委員

企業の献血と社会貢献の問題です。基本的にこれからやっぱり、高度医療で血液がなくなるということを会社の経営者も理解をしてもらうということとともに、今CSR社会貢献が低下してるような感じするのですね。一つの考え方として、今のSDGsの17領域の中にNo.3で確か、健康福祉が入ってると思います。それをうまく経営者に説明をして、社会に貢献するには、これはどうしても必要ですよというPRをされたら一つのやり方としてはいいんじゃないかと思います。

市川副会長

やはり企業との連携とか協力をいただくには、そういった多角、多方面からのアプローチが必要であると思います。実は今、風疹が非常に流行っておりまして、その風疹の患者の7割が30代から50代の男性ですから、今、神奈川県では企業や市町村と連携して企業に風疹撲滅のために協力していただこうと取り組んでいます。これから企業に回りますので、ご意見を反映して、風疹だけでなく、献血についても企業のご協力、或いは企業と連携した取り組みができるようにお話をさせていただければと思います。ありがとうございます。他にどうぞ。

藤崎委員

今そうやって各企業に風疹の関係で、まわられるというお話伺ったので、その時に、献血のお話していただくのは非常に有効なんじゃないかなと思います。ぜひPRしていただきたいと思います。我々その献血していただいた方に検査結果としての血液検査の結果を開示してるんです。これが非常に貴重な情報でして、赤血球は幾つとかヘモグロビンがどの程度の情報から始まってですね。生活習慣病関係のコレステロールですとか、或いは血糖値ですとか、それから感染症にかかっているかどうかなんかも本人が希望すれば送れるですとか、いくつかのものについて、そういう非常に企業側にとっても職員の健康管理をするのも、貴重なデータを実は献血していただくと、お返しできる。そういうことなどが我々もいろいろ説明はしてるのですが、なかなか伝わってないところがあって、ただお願いしますっていうようになってっちゃうところがあるんです。やはり社会貢献をしながら、実は企業にとっても或いは職員にとっても、ある意味でメリットがあるということも、ちょうど風疹で皆さんが懸念を持っておられるときですので、一緒に聞くんじゃないかなと思っています。よろしくお願いします。

市川副会長

ありがとうございます。

二見委員

はい、藤崎委員がおっしゃった通りでございまして、企業の方の立場としては、やはり協力できるものとできないものがあるし、また、職員には個人差がみんなあるわけなので、どうしても一律に「協力するように」といった指示は出せません。仕事の内容も皆さん違いますから、私どもの協会から協力要請しても、漠然とした協力にしかならないと思うんです。企業のなかで健康管理のキーになっているのは、産業医さんなんですね。メンタルヘルスもそうだし、今回話のありました風疹についてもそうなんですけど、産業医さんから、経営者に話していただくというステップが一番効果的だと思うんです。私も企業の人事部におりましたから、行政等からいろいろ話は聞いても、針の刺し間違いや、社員の健康被害があるんじゃないかっていう心配があるとすれば、積極的に職員や管理職層には勧められないと思いますので、専門家からある程度力を入れてやっていただくことが必要かと。先ほどの風疹、献血、それ以外のことも含めてですね。産業医さんを通じて企業に流しこむ形で進めるのが合理的かなと感じております。

市川副会長

そうですね。

二見委員

依頼の方法も総務課とかですね。そういったいわゆる普通の社員から話をしても、“大事なこと”はわかってても、説得力がないですから。

市川副課長

貴重なご意見ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

石澤代理

まず企業からの話でいうと、私も本職が広告会社なので、お客様に提案する時とかに具体的な事例がないとイメージつかないので、うまい企業とかはうまくPRしてCSRを前面に出しているんですけども、その方法もわからなかったりするので理想だとテンプレートみたいな1ページ作ってそこに命の大切さとか、献血についてのまとめた内容と、あとは自分たちはこういったCSRをやっていますみたいなテンプレート1ページを用意して無償で提供する、もしくはうまく献血活動をCSRでPRしている企業とかがあればその例を教えてあげるっていうのがいいのかなと思いました。また我々ライオンズクラブで、委員会でもうやったら献血をPRできるかっていうのを話してるんですけども、そこで出た話をちょっとお伝えさせていただければと思います。まず神奈川県でこのような会議やられているんですけども、ライオンズクラブも、委員長を勤めています。他にも埼玉とか山梨とか東京でそれぞれ委員会があるので、今は合同の委員会の方も月に2回やってそれぞれの情報をシェアしています。献血のバスで献血活動するときに献血以外にも、神奈川県は骨髄バンクも一緒に協力してると思うんですけども、アイバンクや腎バンクもセットでやってるところもありますので、そのような形で受け付けと一緒にやっていけたら、いいよねっていうのと、あとは献血の講師役をそれぞれの学校、小学校とか中学校、高校にライオンズクラブのメンバーが、献血の命の大切さとか、献血の大切さっていうのを講師役で学校に教えるクラブとか持ったりとかですね、それをぜひ神奈川県でもやって

いこうという話になってます。そのときに、理想は大人がそれを教えるのもいいと思うのですけれども、例えば、小学生だったら、小学生がプレゼンターになって小学生が自分たちで勉強したものを伝える、その方が何か心が動くんじゃないかなと思ってます。私の娘も国連の少年少女親善大使になってニューヨークに行って戻ってきて、それぞれの学校とかラジオとか、それこそ黒岩知事さんにも面談してプレゼンしたんですけれども、その方が周りの学生とか友達なので心が動いて、じゃあ自分たちでランドセル集めて、途上国に送り届けようとか実際に運動に繋がったりとかするのでそういった学生とか、子供たちも使ったほうがいいのかなど。献血はどうしてもライオンズクラブのメンバーの年齢もいってますので、そういった私達が献血のお願いしますってよりもやっぱり学生とかがあった方がイメージ的にも親近感がわいたりするのかなというところで、そのような話が出ています。以上です。

#### 市川副会長

はい、ありがとうございます。来年度の事業の中で、学生或いは生徒に対する普及啓発、或いはもっと小さな子供に対する取り組みの手法の一つとして、今のご意見を参考にしたいと思っております。ありがとうございます。

#### 山梨委員

町村の代表者で来てまして採血者の一覧表で、わが葉山町は低いので、まずいなという気持ちがいっぱいあるのですけれども、この目標値の作り方というんですか、達成状況に関連しますので、ちょっとそこから教えてもらってもいいですか。

#### 市川副会長

この市町村別の目標数値っていうのはどのようにして出されたのかお願いいたします。

#### 血液センター

ご説明をさせていただきます。30年度に関しましても、こういった神奈川県献血推進計画の中で目標人数を策定させていただきました。その中で実績過去実績等々各行政の実績等々をかながみまして、伸び率との兼ね合いを少し係数で出しまして、按分しているというところでございます。葉山町様に関しましては、去年よりも少し多めの数字が今年度の目標に計上されているというところではございます。葉山町様が今回達成状況において、ということに関しましては、まず、実施配車台数が葉山町さんの場合は、他の市町村に比べますと多くないものですから、1回当たりの献血者数に少し上限があると、数値的には達成率等々が変更してしまうというような状況でございます。今年度に関しましては、例年、実施させていただいております葉山警察さんが都合で、毎年2回実施させていただいているところ、一度どうしてもご都合が合わずに、中断したというところがございます。葉山警察署さんには3月、もう一度やっていただくという予定になっております。それから、葉山町のですね、南郷上山公園で実施されます、触れ合いマーケットさんのイベントに献血のバスを配車していただいているんですが、そちらが、今回の献血の実施の場所を少し駐車場で変えさせていただいたのですが、結果的にはいつも場所と違うというような状況も含めて例年よりも、参加者としては減ってしまったというような状況がございます。あと山梨委員がいらっしゃいます葉山町役場さんが明後日6日に、また、年2回目の実施をさせていただけないかというふうに思います。我々のほうの勝手な見積もりとか見込みとしましては、今年度葉山町さんは最終的には140名様ぐらいの参加実績になって、達成率では7割ぐらいなのではないかと我々としては目途として立てているというよ

うな状況でございます。

市川副会長

はい、ありがとうございました。

山梨委員

大分細かく話していただいてよくわかりました。明後日私も献血しようと思っています。それから、今のお話のように、やはり会社自体がそういう雰囲気にならないと、スピーカーで広報してます、チラシが配られてます、じゃなくて、献血行った？まだ行ってないから午後行かなきゃねとかいうそういう会話がさらに成り立つ雰囲気づくりをするというのは大事ななと思います。産業医の先生に安全衛生委員会から声かけてもらおうと動かざるを得なくなるとかありますからいいかなと思いました。今の葉山町の細かい話は抜きにして全体の話で1点だけ気になってるのが40何回続いたふるさと広場という祭りが役場の前であって、町も工場地帯とかでないので人がなかなか集まる場所が駅前もない中ですが、祭りにどんと人手があるという毎年恒例のイベントが数年前に無くなったんですね、そこに献血者の方も来ていただいたんですけども、無くなった経緯は運営側のやっぱり活力と少子高齢化といえはその影響もあるかもしれませんが、力が働かなかったところが原因なんですね。そういった背景を考えると、1回献血車が行けなくなったという大変小さなことですが、大きくパーセンテージには影響するわけですね、こういうところをちょっと今後丁寧に考えていかなきゃいけないかなというふうに思いました。このデータと同じように、市町村のデータですけども、例えば、会社さんの協力から出てきた、献血の数とかですね、献血センターの献血の数とか、同じようなフォーマットで出せないでしょうか。

要するにどのぐらいの割合で全体13万リットルが構成されているのかというのがあると、広告を打つ先だったりとか、力の入れ先というのも多少ここは十分満たしてるから、こっちの業界に力入れてみようかとか話し合いができるかなと思いました。私のように葉山町さん力入れて皆さんから熱い暗黙のプレッシャーもらってるので、頑張らなきゃって気持ちになるんですね。同じように各業界の方々がいらっしゃるのでどここの業界さん足りないですねということをお我々が認識して、そこに来年ここに力入れようかという判断をする資料があるとわかりやすいなと思いました。すごく細かいんですけど、これ今回の計画って国の厚労省の31年度の計画をもとにつくられている。個人的なんですけど、1ページの2番の項目が「前項の目標を確保するために必要な措置」となっています。この時代ですね措置という言葉って、計画実行の措置ってやらなきゃいけないから解決のためにこう手段を施すみたいな措置だと思うので、国はそう書いてるんですけど、こういう姿勢でいいんだろうかという疑問から内容を読ませていただきました。広報する内容等今例えば、県の職員の献血の実施という3ページの(ウ)のようにですね、実際に行ったということがすべて普及啓発という言葉でくくられてしまっています。もう少しここはちょっと厚労省の計画とは若干項目がずれるかもしれませんが、ここは子供に対する普及啓発、若年者に対する普及啓発、ここは実際の献血車を回して行くんだという実施の啓発とかですね、もっと細かく神奈川県なりに分けていってもいいかなというふうに思いました。以上でございます。

市川副会長

この計画の案につきまして葉山委員の方から、ご提案ございましたけれども、事務局いかがですか。

## 事務局

はい。貴重なご意見だと思います。今回、来年度の計画につきましては厚労省が31年度に向けて項目を整理したところに合わせたということもございますので、今回はこの形で整理させていただいて、翌年、32年度の計画を策定する時に、ただいまのご意見も踏まえて、再整理を神奈川県オリジナルの考え方も含めて取り入れるべきところは取り入れさせていただきたいと思っております。

## 山梨委員

あくまでやることは別にこれでいいと思うのですが、報告の効果測定をしようというときに、全県的にバーンとチラシつくったよって、これ多分あんまりこの測定ができないと思うんですが、先ほど私が申し上げたようにこの自治体にとか、この会社にとか、この業界って話をした時にそこに向けた広告がこうだった、こういう効果があったっていうのは、そこはある程度セグメントされてると、測定がしやすくなるじゃないですか、そういう視点からいくと今は2番の項目にすべてをひっくるめてやっているんで、何もかもが土俵に乗った後、措置することに力を入れたと思うのですが、措置した結果どうだったかっていう振り返りのためには、もうちょっとこうターゲットをはっきりした計画を作られた方が、そのあとのためなのかなというふうに思いました。

## 市川副会長

では32年度の計画については、成果も見えるような形で計画を立てるように検討していただければと思います。

## 事務局

承知いたしました。

## 市川副会長

31年度の推進計画案については、ここで採決をしなければいけないので、この件についてのご意見、ご質問は、ここでもよろしいでしょうか。

## 星名委員

すみません。先ほどのキッズ献血の件なんですけれども、昨年度1回のイベントでしたけれども、今年度も1回のみという計画になったんでしょうか。

## 血液センター

キッズ献血についてはここにある掲載しているのは本当に大がかりな大きなイベントでございまして、もう少し小さいものを実はやっております。どのくらいかな。4回ぐらいやっております。

## 星名委員

私も子供を育てていて、町で見る献血車を子供と一緒にみかけることがあるんですけど、そういうのを見ると、何っていうふうに興味を持つんですけどやっぱり血をとられるとか、そういうことで、ものすごく敬遠する。そういうのを見るとやっぱりこういうキッズ献血のような啓蒙活動をもっと広めていくことで、子供たちの興味関心そのまま低迷するわけではなく、持ち上がっていくのではないかなっていう点で、できれば、地域を広げてい

ろんなところで開催して欲しいなあって思っています。

#### 血液センター

ありがとうございます、よくわかりました。

#### 市川副会長

いろいろ本当に貴重なご意見いただきましてありがとうございました。具体的な取り組みの手法ですとか、ご意見いただきましたので、いただきましたご意見を踏まえまして、事務局の案をもとに、国の告示等をもって31年度の神奈川県献血推進計画を策定させていただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。策定した計画につきましては後日事務局から各委員の皆様方にお配りさせていただきますので、よろしく願いいたします。また具体的なこの計画の実施にあたりましては皆様方のお力添えを賜ることも多いかと存じます。どうぞよろしく願いいたします。それでは本日の議題につきましては終了いたしました。予定されていた時間まであとですね。7分くらいでございますので、もし、ご意見をという方がいらっしゃいましたらまだ少し時間がございますので、全体を通してで結構でございます。何かございましたらご意見ちょうだいできればと思います。いかがでしょうか。はいどうぞ。

#### 藤崎委員

ご紹介といいますか、それぞれの委員先生のお立場からいろいろお話をいただきましたけれども、血液センターという立場で一つに取り組んでること、全国の血液センターへの相談、きずなという一つのですね、やはりつなぐという。これは一つのキーワードにしながら、取り組んでいこうという機運が盛り上がってますが、どういうことだと言いますと、献血された方が自分たちが協力した血液がどう使われているかということがわからない。それから今度、献血し、その血液を受けて医療を受けて、もらえる方々がどういう方が、とかそういうような相互の絆が、今までもそういう活動はあったことがあったんですけどもまだまだ十分ではないんじゃないか。問題意識がなかったですね。そういう取り組みを強化すべく、いろいろ取り組んでおります。やり方もいろいろと各全国の血液センター或いはいろんな協力していただく団体医療機関によって違うんですけども、例えば医療機関の方ですと、その子供たちがいるような病棟に何かボックスを置いて、そこにいろいろとありがとうございますっていうことを書いたのです。ものを入れて、それをまた送っていろいろな形で献血者の方に情報が伝わるように、例えば献血ルームにそういうもの掲示するとかですね、ホームページに載せるとかですね、そういう形でやっていく。或いは現在、使われてるのはこういうふうこういう病気に使われていますとかですね。交通事故とかそういうものより、がんの治療が一番多いわけですけども、そういった方面に使われていますとかですね。実際献血した方々がそういうことを肌で感じられるよう、それから今度は献血者の側から治療されてる子供さんや患者さんたちに頑張ってくださいと提供するような、血液センターそういうことを通じて、全員の献血の情報、或いはそれを受けて治療されてる方々ある医療機関の方々ももっともっとお互いに繋がっていつてきずなが生まれていくということが、この献血という取り組みの中で非常に重要なんじゃないかと思えます。どういうやり方でやるか今私ども職員一生懸命考えながら具体的な取り組みに向けて努力しておりますけれども、ちょっとそんなことを紹介させていただきたい。

#### 市川副会長

ありがとうございます。

## 星名委員

今の話が続けてなんですけれども、私自身も医療者として献血を、実際献血ではなく輸血を扱っていた身としては、やはりその病気で使ってる方が非常に多いですね、がんは2人に1人になる時代で、やはりその輸血をすることによって、命を永らえている患者さんたちが多くいらっしゃいました。その血液を使っている患者さんがいるんだっていうのがもうちょっと献血者の身近に一般市民の方が、その献血を受けるか受けないかっていうのは献血車の前に行ったときに感じるものだと思います。その献血車のところでそういったものがもう少し、献血ルームももちろんですけども、そういったところでもう少しそういった患者さんがいるんだっていうこの輸血献血の向こう側には患者さんがいるその相手が見える啓蒙活動をもっとしていただけるといいなっていうのが今の話も聞いて私も感じているところですので、よろしく願いいたします。

## 市川副会長

さきほどの「あなたの献血で誰かの命を救えます」の動画を今年作ったのは、そういった視点で、あなたの献血がこういう病気のお子さんの治療に使用することができましたよっていう、そこに訴えるようなところに力を入れようと考えています。神奈川県でも、血液センターと連携して、より多くの方にわかっていただくように、献血バスですとか、血液センターですとか、いろんなところで、それを分かっていたくように、或いはまだそこに足を運ばない方にもわかっていただくようなそういった啓蒙をきちっとしていかなければいけないと思っております。

## 二見委員

前回のときもお話したと思うのですが、昔は献血手帳がきちっとあってですね、献血するために記録が残ってて、それで、何年か経ってもまた献血手帳を持っていればそれで、また思い出したようにやる、とかね。いわゆる先ほどの絆の話だと思うのですが、何にも繋がるものがなければ、献血しましょうって言っても一瞬気が付いて通り過ぎていくだけだと思うのですよ。今持つことがくだらないのかもしれないかもしれませんが、献血手帳みたいな形できちっと1人ずつが持つとかですね、ああいったこともまた大事なんじゃないかなって今思ってるんです。献血カードみたいなものが配られてますけど、このペラペラしていつの間にかどっかいつちゃうわけですね。昔は献血手帳でちゃんと開いて紙であって、だからもうちょっとしっかりした献血手帳なり献血カードみたいなものが配られた方がいいのではないかと。例えばクレジットカードと同じような感じだとか健康保険証と同じような形であるとか、そういったこともあるんじゃないかなっていうふうに思ってます。これは一つの意見だし、そんな重たいもの持ってられないっていう人もいるかもしれませんが、絆という、もう生で物を持たないと感じないと思うんですね。だからそんな感じがしちゃうのです。そういったところもご検討いただければと、前回も言ったかもしれませんが、よろしく願いします。

## 市川副会長

わかりました。今はこういう記録されるカードになっておりまして、確かに薄いですが、どんなふうなのが一番いいのかっていうのは検討ですね。

## 二見委員

ずっと持ってますよ、献血手帳は。

市川副会長

素晴らしい。

藤澤委員

それから日本の母子手帳というふうに国際的にも価値が認められるようになっておりますので、そういう意味では子供の頃は健康手帳というのが義務教育期間中はございますので、それ以降、献血した大人だけが持っている健康手帳のような位置付けで、お考えいただくというのも、よろしいのではないかなというふうに思いました。

市川副会長

検査の結果も出てきたら、そこに記録されたりするとよろしいですけどね、なかなかハードルが高い。そういった意味で皆さんがそういう気持ちで、やっていただけるような対応を考えなければいけないなと思っております。

山梨委員

この関係で、元旦にメールきたんですけども、神奈川県赤十字献血の取り組みなんですか。ラブラッドメール来たんですけど。

血液センター

さっき説明したラブラッドという複数回献血クラブっていうのがあるんですけど、ご加入いただいているのでしょうか。

山梨委員

はい。

血液センター

それはそこから行ったかと思います。

山梨委員

元旦に来る必要があるのかなと。

市川副会長

1月1日に届いたということですか。

山梨委員

11時に、昼にパッと来て、なんだろうと思ってたら献血なのかなと思ったらあけましておめでとうございますと来たんです。

市川副会長

年賀状的な。

山梨委員

必要なのかな。

血液センター

なかなかお正月も献血者が集まらないところもありますので、その辺をご理解いただければと思います。よろしく申し上げます。

市川副会長

それでは本当に皆さんいろいろ貴重なご意見いただきましてありがとうございました。いただいたご意見につきましては具体的な取り組み、或いは来年以降の計画に反映できるようにきちっと検討をして参りたいと思います。それでは以上をもちまして本日の協議会終了させていただきます。長時間にわたりまして本当にどうもありがとうございました。